

衣のNGO



NPO 法人日本ファイバーリサイクル連帯協議会

〒260-0001 千葉市中央区都町 3-14-10

Tel・Fax : 043-234-1206 (木曜定休)

E-mail : jfsa@f3.dion.ne.jp

ホームページ : <https://jfsa.jpn.org/>

会報についての感想やご意見もお気軽にどうぞ

会報 53号 2020年9月



キャンパス5に通う子どもたちと授業を行なう先生
パキスタンでは、新型コロナウイルス感染症の拡大により、3月から9月15日まで休校措置が取られました。そこでアル・カイルアカデミーは、カラチ市郊外にある3つのキャンパスの生徒の家の部屋を借りて15~16人の子どもたちを集め、先生が訪問して授業を行なっていました。

政府の方針で9年生と10年生は9月15日から、6~8年生は9月22日から、その他の学年は9月30日から授業が再開予定です。特にキャンパス2、3、5、6の周辺では子ども達が小さい頃から仕事をしています。休校している間に学ぶことへの関心が下がってしまうことを心配しています。学校再開に向けて、生徒の家庭訪問を行ない、再び学校へ通うよう呼びかけています。

【会報53号 3ページより抜粋】

目次

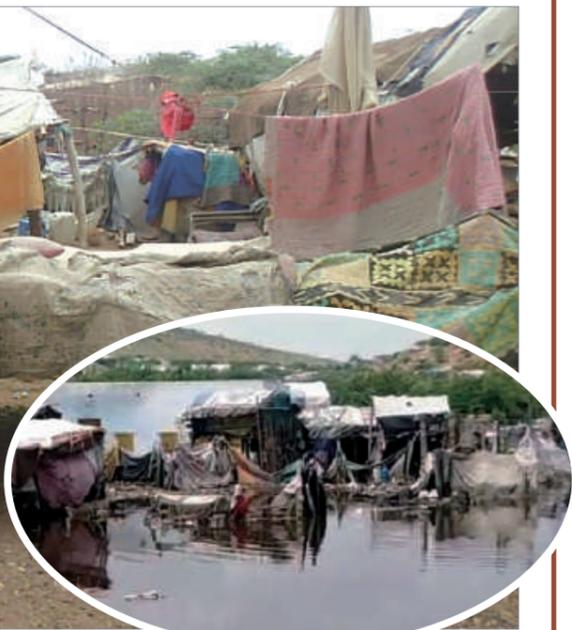
アル・カイルアカデミーとスラムで暮らす人々の近況	2 ~ 4p
パキスタンへのコンテナ送り出し・到着報告	5p
東葛センターだより 「原点」	6p
千葉センターだより	
「千葉店の店名が『CHARKHA BAZAAR (チャルカバザール)』になりました!」	7p
kar-khana 事業報告 「ハオリジャケット」	8p



JFSA のホームページ

アル・カイルアカデミーと スラム地域で暮らす人々の近況

海外事業担当事務局 依知川 守



8月の大雨により甚大な被害を受けた、カチラクンディに暮らす人々と住居。
左:水害前に撮影(2018年7月) 右:水害後に撮影(2020年8月)

新型コロナウイルスの感染拡大の抑制のために3月から実施された外出禁止令により、アル・カイルアカデミーは休校となり、主に日雇い仕事で家計を支えている生徒の家族にとつてはとても厳しい状況となりました。アル・カイルアカデミーは生活困窮家庭に対しての食糧支援活動を継続してきました。一方で8月にはモンスーンの大雨により、カラチのアル・カイルアカデミーの各キャンパスと周辺のスラム地域を含め大きな被害がありました。そこで、2020年9月16〜18日に、スラムの人々の暮らしやアル・カイルアカデミーの事業活動について、電話とメールでムザヒル校長にインタビューを行ないました。

新型コロナウイルスの 感染拡大は緩やかに

【質問】外出禁止例によって失業など影響を受けた家族のための食糧支援活動の現状を教えてください。

ディで困窮している全ての住民(約500世帯)を対象としています。

食事の他に、浸水した住居の修理や、生活用水の貯水槽の建設も行なっています。この貯水槽は、要望のあった20家族(約90名)の暮らす集落の一角に作りました。これまで住民はこの地域の水販売所で2ガロン(約7・7リットル)単位で購入せざるを得ませんでした。これからはタンクローリー車から大きな単位で購入できるため、購入価格がとて低く抑えられます。新しい貯水槽を利用する住民たちは、周辺の集落の人が水を求めてきた場合には、無料で配布することを約束しました。

9月15日、学校再開

【質問】政府は学校を9月15日に再開する予定でした。実際に再開はされましたか？

【ムザヒル校長】はい。政府の方針で9年生と10年生は15日から再開しました。上級生の生徒達は学ぶ意欲が高く、休校中は学校に來られず心配だったと話していました。

今後、6〜8年生は9月22日から、その他の学年は30日から再開予定です。特にキャンパス2、3、5、6周辺の地域では子ども達が小さい頃から仕事をしています。学校としては休校

【ムザヒル校長】外出禁止令が解かれ、経済活動が再開されたため、食糧支援は終了しました。一方、モンスーンによる大雨で、水害に見舞われた家族への支援を開始しています。

【質問】パキスタンでは新型コロナウイルスの感染拡大は緩やかになったという報道を目にしました。あなたの周りでの感染状況、暮らし、事業活動の変化はありますか？

【ムザヒル校長】報道は正しいと思います。人々の暮らしや事業活動は正常に戻ってきていて、新型コロナウイルスへの恐怖は大幅に軽減されてきています。

モンスーンによる大雨

【質問】8月のモンスーンによる大雨でカラチ市を含め数十人が感電などで亡くなっていると聞いています。心からお悔やみ申し上げます。

【ムザヒル校長】私たちの学校の教師や本校の生徒は、アブドゥルラヒーム地区、スルジヤニ地区、ユス



冠水した道路 カラチ市内

している間に学ぶことへの関心が下がってしまうことを心配しています。学校再開に向けて、生徒の家庭訪問を行ない、再び学校へ通うよう呼びかけています。

【質問】生徒たちは暫く学校で勉強することができませんでした。再開に際して彼らの勉強を支援する活動を考えていますか？

【ムザヒル校長】学校再開は少し難しい挑戦になりますが、この数か月間は生徒と連絡を取り合うよう努めてきました。学校再開とともに、専任の教師がこの課題に取り組む予定です。高学年のクラスには補習授業を行なう必要があるかもしれませんが、まだ確定はしていません。

【質問】アル・カイル初の女子校であるキャンパス8の建物が完成したと聞きました。女子生徒の学びの機会が

作られることを大変嬉しく思います。キャンパス8はいつ頃、どのようにスタートしますか？

【ムザヒル校長】まだ開校日はまだ確定していません。確定次第お知らせします。以前お伝えした通り、教師を含めスタッフはすべて女性が担います。パキスタンでは女子は高学年まで学び続ける必要がないと考える人もいますが、私たちは女子生徒が自分の人生というものを考え、より良くする力をつける場を作ることがとても大切だと考えています。

キャンパス8の近くのキャンパス3では、現在、女子生徒が30%と少ない状況です(キャンパス1では50%が女子生徒)。キャンパス8周辺では14歳位で婚約や結婚する女子も多く、彼女たちが学ぶモチベーションを保ち続けられるように支えたいと考えています。

調査の結果、ベッド、扇風機、食料品、食器、衣服など、すべてが破壊、または流失してしまっていることがわかりました。私たちはこれらの家族のための食糧配給活動と社会復帰支援活動を開始し、できるだけ多くの家族を助けるために資金を集めました。

要望を訴える全ての被災者へ届けることはできませんが、これまでの学校の活動を住民は理解しており、「物資は結構です、子どもが早く学校へ通えるようにしてほしいです。」と言ってくる人もいます。今も3人の教師が調査を継続し、必要な地域に物資を届けています。

【質問】キャンパス2のあるカチラ・クンディ(カラチ市内のゴミを集めて野焼きをしている地域)の被害が甚大だと聞きました。この地域ではどのような支援活動を行なっているのですか？

【ムザヒル校長】彼らの住居は浸水し、薪を燃やせないために炊事ができません。また、ゴミを燃やして有価物を集めることができないため収入(1日約200〜300ルピー)を得られない状況です。

私たちは2週間前から学校で、調理した食事を毎日約千人に2食提供しています。今後も3週間は続けるつもりです。この支援活動はカチラ・クン



生徒の家を家庭訪問するアル・カイルアカデミーの先生



大雨により壊されたカチラ・クンディの家を修繕するための藁や木材。1軒修繕するのに約15000ルピーほどかかるそうだ。

パキスタンへのコンテナ送り出し・到着報告



上
フォークリフトを使い、衣類などを圧縮梱包した塊(50kg)をパレットに載せてコンテナの中に

下
コンテナからの荷下ろし
卸業者の倉庫へ荷物(1個50kg)を肩に担いで運ぶ荷役労働者

第68回コンテナ送り出し
(5月12日 22トン3〜4キログラム)

第68回の送り出しは4月上旬に予定していましたが、しかし、新型コロナウイルスの感染拡大で、パキスタンがロックダウンとなり、カラチ港の物流も制限がかけられていたために送り出しの延期を決定しました。その後、AKBGのカユーム氏や知人の古着輸出業者さんからの情報を頼りに、約1ヶ月延期して5月12日に送り出しを行なうことになりました。これまで積み込み作業は大勢のボランティアの方と賑やかに23トン程の荷物を人力で詰め込んでいく、体感型の一大行事でした。しかし、感染拡大防止のため、人員は最小限とし、マンパワーを補うためフォークリフトを初めてレンタルして臨むことになりました。初めてのことはかなりで、「今日中に終わるだろうか、」など不安でしたが、当日はボランティア参加歴の長い経験豊富な仲間が駆けつけてくれました。

また、フォークリフトの運転を今年3月にパキスタンを訪問した古くから付き合いのある方が担ってくれ、無事に荷物を満杯に積めて送り出すことができました。

第68回コンテナ到着
(6月23日 カラチ港到着)

第68回のコンテナは無事にカラチ港に到着し、6月25日に荷下ろしが行なわれました。世界的に経済活動が縮小する事態となり、古着価格の下落が懸念されました。幸いなことに、AKBGからコンテナを購入する卸業者のニアズ氏はアフガニスタンに販路があり、影響が少なかったことから卸売価格はコロナ以前とほぼ変わらずに済みました。

第69回コンテナ送り出し
(7月14日 23トン407キログラム)

第69回の送り出しは7月14日に行ないました。選別協力団体の千葉ダルクやオアシスのみなさんから「作業の集大成である送り出しに立ち会い、一肌脱ぎたい」というお気持ちをお聞きし、感染予防策を取り人数制限をした上で参加してもらいました。コロナによりこれまでと状況が変わっても、変わらずに集まってくれる仲間が周りにいて、これからも共にやっていきたいと感じた送り出しでした。

第9回コンテナ到着
(8月17日 カラチ港到着)

第69回のコンテナは8月17日に無事にカラチ港に到着しました。8月に入り、パキスタン国内での新型コロナウイルスの感染拡大は緩やかになっていました。しかし、モンスーンによる大雨がパキスタン各地を襲い、カラチ市内もいたるところで被害がありました。港湾業務も止まり、荷下ろしができない状況が約1ヶ月続いています。

AKBGのカユーム氏は「古着マーケットは新型コロナウイルス感染症が流行する以前に比べてスローな状況が続いています。特にヨーロッパからの古着が減少し、私の元にも購入を求める卸業者からの問合せが相次いでいます。その点では日本や韓国などの古着の需要が高まっているので



69回の送り出しボランティアの皆さんと
当日20名の参加がありました。感染予防の対策としてマスクの着用、こまめな消毒など行ないながら作業を進めました。

国内事業担当事務局 入江賢治

高値で販売したいところです。しかし、経済活動が再開されて以降、国内輸送費が約3倍に急騰しており、それを考慮するとこれまでより高値での販売は厳しい状況です。更に、大雨で約1ヶ月港から移動できなかった(9月17日荷下ろし)コンテナには、その間のコンテナの超過保管料が発生してしまいました。卸業者にとっては大きな負担となっています。」と教えてくれました。



キャンパス1の幼稚園クラスの授業風景

【質問】最後にJFSAの会員・支援メンバーへメッセージをお願いします。

【ムザヒル校長】この困難な時期に、JFSAの会員と支援メンバーはアル・カイルを支援し続け、また困難かつ異常な条件下にあっても活動を継続してきました。新型コロナウイルスの感染拡大抑制に取り組みながら、衣類などの仕分け、梱包、コンテナへの積み込みなどの業務を管理することは容易ではないはずですが、私たちはあなた方の努力に対して心から感謝し、あなたたちが私たちのパートナーであることを嬉しく思います。あなたたちの継続的な支援により、この歴史的な困難な時期にさまざまな支援活動を実施することが可能になりました。

ムハンマド・シャヒド先生
40歳、物理学と数学を担当

Q、外出禁止などで、あなたやあなたの家族はどのような影響を受けていますか？
A、外出禁止期間中に兄が失業し、家族は経済的困難な状況でしたが、4か月経ち彼は仕事に復帰しました。

Q、あなたは新型コロナウイルスについて、どのように情報を得ることができましたか？
A、情報は「WhatsApp」というSNSから得ていましたが、少し大げさだと感じました。それでも予防策を講じる必要があると思っています。

ラレイブ・リカト・アリさん
15歳、8年生

Q、外出禁止などで、あなたや家族はどのような影響を受けていますか？また最近では状況が変化しましたか？
A、私たちは財政的そして教育の問題に直面しています。私の父はチャイ(ミルクティー)を売っていますが、外出禁止期間中、お茶を出す店が閉じていたため、何もすることができませんでした。今は問題がなくなり、働き始めました。

Q、あなたは、この新型コロナウイルスについて、どのように情報を得ることができましたか？
A、ニュース番組やSNSアプリを通じて得ていました。ウイルスが咳やインフルエンザ

Q、家族やあなた自身が発熱するなど、感染が疑われた場合はどのように行動しますか？
A、私は家族を自宅で隔離状態にするつもりです。

Q、休校の間、あなたはどのように過ごしてきましたか？
A、アル・カイルアカデミーの食糧支援活動に参加し、忙しかったです。

Q、生徒たちとは会いましたか？
A、はい、食糧の配給中に会いました。

Q、休校の間、何か印象的な出来事がありましたか？
A、多くの人が食糧支援活動の恩恵を受

に関連していると聞いたことがあります。

Q、家族やあなた自身が発熱するなど、感染が疑われる場合はどのように行動しますか？
A、私の家族に症状が現われた場合、私は彼(彼女)を一人で部屋に分けますが、彼(彼女)を完全に一人にしておくことはしません。

Q、休校の間、あなたはどのように過ごしてきましたか？
A、縫製のスキルを本校に併設された縫製工房で学びました。そこで、新しい縫製のスキルを学ぶことができて楽しかったです。

Q、勉強をすることはできましたか？
A、家で勉強しようと思いましたが、先



インタビューに答えるシャヒド先生(右)



インタビューに答えるラレイブさん

生の指導がなく大変でした。

Q、これから学校が再開される予定ですが、どう感じていますか？
A、それを聞いてとても幸せです。

Q、あなたは家族や暮らしについて、今何か心配なことはありませんか？
A、いいえ！新型コロナウイルスによる問題は何かありません。治療よりも予防が大切だと思っています。

『原点』

『時間は存在しない。あるのは空間と物質だけである』と、何年か前にテレビ番組で放送されているのを見ました。物理学者がまじめに考えている話だそう。常識がひっくり返る話だと思いましたが、そして「もしそれが受け入れられたらどんな世界になるのだろうか？」と考えると少し興味がありました。時計屋さんは大弱りじやなからうかとか、寝坊を叱られることはなくなるんだらうかとか。

コロナ禍と言われて半年が過ぎ、自粛や制限が当たり前となり、今まで当たり前のように行なってきた様々な行動や私たちにとっての活動も、イベントの中止や古着の



東葛センターに到着したコンテナ。ペール（衣類を圧縮梱包した塊 1個約45kg。）は229個、10400kgの衣類をパキスタンから仕入れた。

直接受付中止など、制限を受けたり自主的に規制したりすることにより、以前と普段の様子が変わりました。常識がひっくり返るほどではありませんが、多くの不測の事態は活動計画の変更を余儀なくされました。そんな中でも呼びかけに応じて古着を送ってくださる皆様や、変わらず買物に来てくれる皆様、それを支えるボランティアやスタッフが力を合わせて、前に進むことができていると感じています。

具体的な行動の変更としては前回の会報でも書きましたが、それぞれ結果が出始めています。まずは古着輸入についてですが、到着した荷物の仕分けには「就労継続支援B型事業所」であるワーカーズ・コレクティブ（※）「紙ふうせん」に参加してもらって無事に終わり、その後の保管や販売についても効率的な仕組みを作ることができました。冬物の輸入に関しても同様の方法で進められそうです。次にオンライン販売については、柏店で数字上大きく伸ばせたわけではありませんが継続的な仕事とすることができたこと、千葉店でも取り組みを始められたことが大きな前進でした。遠くないうちに店舗、街商と並ぶ事業の柱になってくれることを期待しています。最後に「Kar-Khana(カルハナ)」事業ですが、注文をもらって日本で製作する仕事が大忙しとなっています。こうした状況の

東葛センター担当事務局 田辺航太郎

中で同様に事業を多様化させようとしている古着屋さんから、ヴィンテージの生地や毛布などで服を作る依頼をもらいました。パキスタンでも日本でパターンを起こしてそれを工房で作る作業が現在進行中です。作成上の注意点などをビデオ通話で伝えるところが、とても現代的だと思います。

良い変化ばかりではなくイベントに出店できなくなったことによる収入の減少など、悪い点もあります。それは私たちだけでなくパキスタンでも同様です。寄付金の増加など良い点はありましたが、学校は長らく閉鎖されることとなりました。ようやく9月15日に再開することになりましたが、彼らの暮らしも親の収入が減ることや得られなくなることがある中で、今までと同じように過ごすことはできなくなっていることがあると聞きました。

こうした状況の変化はこれからも起こっていくと思います。そうした時には変更を余儀なくされます。目の前の変更は大小様々あると思いますが、決定においてはいつだって原点に立ち返り、彼らの暮らしが少しでも上を向くことにつながるようにと、それを続ける自分たちが意欲を持って楽しくやっていると考えることだと思っています。それさえ目指せばどんな変更だってしていけるんじゃないかって気がしています。

千葉店の店名が「CHARKHA BAZAAR(チャルカバザール)」になりました！



暖冬を乗り越え、春夏物の販売に意気込んでいた最中、コロナ禍といわれる状況となり、色々なことが大きく変わりました。収入の柱の一つだったフリマやイベントなど、外での販売が全て中止となる中、千葉店では4月中旬からオンラインストアを開設しました。すでに開設していた柏店からノウハウを学び、千葉店のスタッフにも経験者がいたことから、スムーズに進めることができました。また、宅配会社との契約で低価格の送料を設定したり、店頭で受け取るサービスを作ったりと、千葉店独自の取り組みも進めました。開設当初は、オンライン上に新しい店舗を開いて新しいお客さんに販売するというイメージを持っていましたが、実際には実店舗のお客さんの利用も多くあったり、実物を試着しに来店されたりと、オンラインとオフライン（店舗）の垣根を超え、一つのお店として回っていることを実感しました。

千葉店、柏店ともに、運営の根底には、地域性や周りの人たちとの具体的な関係性があり、それぞれの場で働くメンバーが中心となり関係を作っています。コロナ禍になつてからは、お客さんを始め、周りの人たちとの関係性がより一層濃くなっているのではないかと感じます。千葉・柏それぞれ築いている独自性はこの先も大切にしていこうというところから、千葉店として

新しく名前をつけることになりました。

チャルカとは、パキスタンの言葉で糸を紡ぐ「糸車」のことです。バザールはご存知の方も多いと思いますが、色々なものが売られている「市場」のことです。AKB G事務局のカユムさんに、チャルカについて尋ねると、「インド、パキスタンが分離独立する前、私のお祖父さんはカシミールから家族を残し1人パキスタンの北方地域の山岳地帯に移住してきました。お祖父さんはその後、羊毛をチャルカで紡いで織り物を作り、売って暮らしを立てていました」と教えてくれました。

8月から、新しい取り組みとしてチャルカバザールの店頭で野菜の販売を始めました。選別協力団体として来ている、薬物依存症の回復施設「千葉ダルク」が、リハビリプログラムの一つとして作っている野菜と、障がいのある方とともに農業に取り組んでいる「生活クラブ・虹と風のファーム」の野菜です。どちらの団体も、毎月第2土曜に行なっている軒先市に野菜販売で出店して下さっています。月に1日だけではなく、常設で野菜の販売を行なうことで、お店のお客さんにとっても来る楽しみが増え、そのことが野菜を作る側にとっても事業が継続できることにつながります。お店での売れ行きは好調です。美味しかったとリピーターになってくださる方や、入

千葉ショップ担当事務局 大橋紀子

荷日に合わせて買いに来る方、こうやって食べたレシピを教えてください。野菜をきつかけとして、また新たな角度からお客さんと話をするきつかけができました。

「野菜も売り始めたんですか！何屋ですか！笑」と、ここ最近お店にいると声を掛けられます。古着屋に来たのになぜか野菜を売っているという面白さ、そこから、なんでだろう、何をやっている団体なんだろうと、興味を持ってもらえるきつかけになればよいと思います。糸を紡ぐように、人と人が出会い、繋がりが広がっていく場にしたという願いを込めてつけた名前です。今後ともよろしく願います！



虹と風のファーム 大根収穫の様子 (左：農場長の橋口さん)

JFSA千葉センター / CHARKHA BAZAAR(チャルカバザール) 営業時間：10時30分～19時(木曜定休) 千葉県千葉市中央区都町3-14-10 電話・FAX 043-234-1206

JFSA東葛センター / 古着ショップ kapre (カブレ) 営業時間：10時30分～19時(不定休) 千葉県柏市大室176-1 電話・FAX 04-7110-0984

※ワーカーズ・コレクティブとは：出資・運営(経営)・労働を三位一体として活動を進め、地域の課題に気がついた時、働く場としてそれを解決する働き方(特定非営利活動法人ワーカーズコレクティブ千葉県連合会のホームページより)



商品紹介「ハオリジャケット」

kar-khana 事業担当事務局 小島 慧

ハオリジャケット

日本の「羽織」とスーツの「ジャケット」の中間のようなデザイン。14オンスのしっかりしたデニム生地を裁断、縫製の工夫で立体感の出る商品となっております。着こむほどにデニム特有の「あたり」や、体になじんでいく様子を楽しめる一点となっております。



kar-khana 事業を正式に始めてから丸1年が経とうとしています。店舗やイベントでの販売、お客様からのオーダーによって一つずつ形を作り上げていくなか、コロナウイルスによる影響が販売や製品づくりなどに少なからず出しました。

販売に関しては3月末のイベント出店後、出店予定になっていたイベントが2ヶ月近く中止となりました。6月

から徐々に都内を除いたイベントが各地で開催されるようになりましたが、以前のような活気を取り戻せてはいないように感じます。

縫製工房へ発注をしていた製品はパキスタンのマーケットがロックダウンにより閉じてしまい、素材の仕入れが困難になりました。また、製品が完成しても日本に送るための飛行機が飛ばない状況が続き、空輸の再開後も送料が通常時の何倍にもなり頭を抱えてしまいう状況は続いています。

コロナ禍と呼ばれる状況下ではあります。ですが、少なくとも買ったイベントでも何度かオリジナルの商品を買ってくれているお客さんが久しぶりの出店を知ってわざわざ来てくださったりと、いくつかの商品は完売になったりと嬉しい成果も挙げられています。今回の商品紹介でも取り上げている「ハオリジャケット」ですが、実は3回目の増産となる年齢や性別問わずに売れている人気商品です。毎回、パキスタンのマーケットでもとても分厚いデニムの端切れ、と言っても数十メートルから百メートル単位になるものを現地スタッフとともに一つ一つ生地を確認

し、納得のいくものを購入しています。端切れであるため、増産の度に生地も変わり、売り切れてしまうと形は一緒なのに違った表情を見せてくれるのも面白みの一つです。紺と黒、両方とも時期を置いて買ってくださいお客様もいらっしゃいました。形が気に入っていて、色違いで楽しみたい、というとても嬉しい言葉をいただきました。こちらの「ハオリジャケット」、CHARKHA BAZAAR (チャルカバザール)、Kapre (カプレ) ともに執筆現在在庫ありますので、気になった方は是非、袖を通して来てくださいます。まだ紹介しきれいな商品もたくさんありますので、店頭にてお待ちしております。



パキスタンのマーケットで売られているデニムの端切れの山。一つずつ触り、色を見て選びます。

2020年度の会員・支援メンバーを募集しています (2020年10月~2021年9月)

2019年度 正会員 個人：148名、団体：11 賛助会員 個人：1177名、団体：8 (9月末日現在)

JFSAIは正会員及び賛助会員(支援メンバー)で構成されています。皆さんの参加が、パキスタンの人々との連帯事業を推し進める力になります。

会員・支援メンバーの方には、会報・回収案内(年3回)、サポーターグッズ(年1回)をお送りします。

- 年会費(10月~翌年9月)
個人：会員 5,000円 / 支援メンバー 2,000円
団体：会員 50,000円 / 支援メンバー 10,000円

- 会費振込み口座(郵便振替)
番号：00160-7-444198 口座名：JFSA
*活動への寄付にも同じ口座がご利用できます。
通信欄に「寄付」とお書き添え下さい